

中北の地域社会 (community) の心の交流 (communication) をめざします

## ふるさと山梨かるたで、山梨県のプロになろう！ 北杜市立長坂小学校

北杜市立長坂小学校（小尾一仁校長）では、子どもたちが「ふるさと山梨かるた」を楽しんでいます。さっそく、4年生社会の授業（安孫子功実先生・渡會裕輝先生）にお邪魔しました。



今日の授業は、かるたの内容を調べてまとめる時間。「ヨイチ？」「ヤナギサワ？」「フジカワシュウ ウン？」「なにそれ～」「そこ行ったことあるよ！」覚えた読み札を発表したいと、子どもたちのたくさんの手が挙がります。

いよいよ調べる時間。活発に発言をしていた子どもたちは、タブレットに全集中。文章の入力と写真の貼り付けをして提出。15～20分ほどでまとめてしまうデジタルネイティブな子どもたち。友だちの作品とくらべて、説明を手直しする姿も見られます。

地元の三分一湧水の読み札「三分一の石 知恵の石」は、日向 尊さんの作品です。「あの武田信玄がつくったと知っておどろきました。武田信玄は頭が良いんだな。」（日向 尊さん）

「友だちの考えた読み札が入ったことをきっかけに、地域へ目を向け、興味深く取り組んでいます。」（担任の先生）

「興味を持った札は、家族に聞きたいです。」  
「知らないことやなるほどと思うことがいっぱいあった。」（子どもたちの感想から）

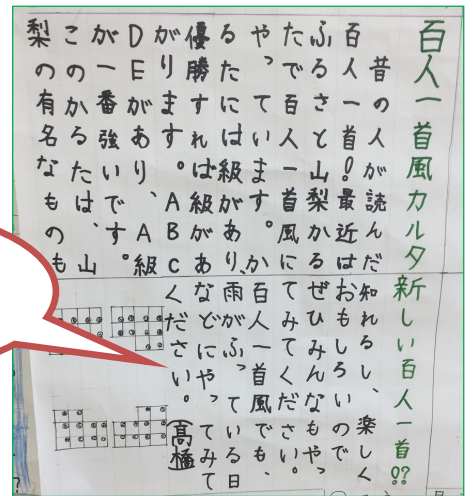
「歴史や他の地域に関する言葉もありますが、新しい言葉を知ること、子どもたちの知識が派生していくのがわかります。」

「雨の日にはかるたで遊んでいる子も多く、山梨のことについてもっと知りたいという様子が見られます。夏休みの自由研究として計画している子もいます。」（担任の先生）



クニマス、大塚にんじん、桃太郎伝説、甲州弁……。2学期には「やまなし博士」になった子どもたちの姿が見られそうですね。

「使ってみるじゃん  
ふるさと山梨かるた」



壁新聞にかるたの紹介文を発見！

### ふるさと山梨かるた とは

県教育委員会では、児童が日常的に楽しみながら山梨について学ぶことができるよう「ふるさと山梨かるた」を作成、県内の小学校に配付しました。

かるたとして楽しむことはもちろん、かるたに取り上げられているテーマや内容について調べて、山梨をより好きになってほしいと思います。

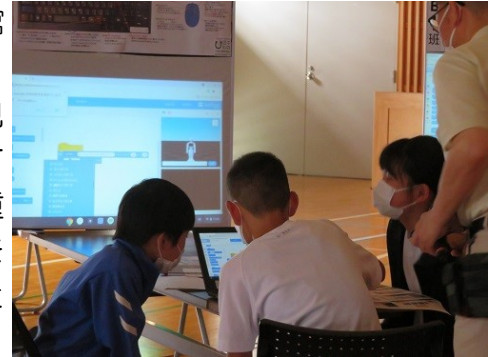
「ふるさと山梨郷土学習コンクール」への応募も待っています。  
（義務教育課 担当）

Q ふるさと山梨かるた のなかの1枚、  
「〇〇〇〇〇〇 山頂彩る 甘利山」  
さて、どんな言葉が入るかな？（答えは今号のどこかに）

6月14日(月)、白根源小学校(河村徳仁校長)では、人型ロボット「Pepper(※)」を使ったプログラミング授業を行いました。講師を園原隆敏さん(一般社団法人アイやまなし人材育成協会代表理事)に依頼、1・2校時に園原さん自らが準備、3・4校時が6年生、5・6校時が5年生、そして放課後は職員の校内研修会と1日とおして計画されていました。

この日お邪魔したのは6年生14人の授業。扉が開け放たれた広い体育館には、班ごとのPCとディスプレイ、中央には2台(2人?)のペッパー。

実は、子どもたちへの事前準備は「班ごとポーズを選ぶ」ことだけ。見守る先生の心配もありましたが、子どもたちは、講師の指示をよく聞いています。進み具合はそれぞれですが、PC画面に「命令」するブロックを重ねていきます。せりふと画像を組み合わせて、事前に選んでいたポーズをつけて、いざペッパーのタブレット画面で「実行」。実行ボタンを押すと何が起こるか不安なのか、ペッパーからあとずさり。



「うわっ」「あれ・・・」「うごかない。」「そっか」



思ったとおりに動いてくれないもどかしさ、順序だって組み立てる難しさ、動いたときのうれしさを実感したようです。

### 放課後の校内研究会、職員もチャレンジ！

「職員も、子どもたちと同じ内容の研修を行いました。初心者の職員も『案外、簡単ですね。』『楽しいですね』などと言っていました。」(参加した教員)

### 次回に生かす課題は・・・

「子どもたちの学習活動を見ながら、レベルも高く、スピードも速かったと感じた。事前に、スクラッチの構造やせりふや動作との関連を子ども自身が理解しておくことで、自分が作りたいロボットの動きを目指した活動ができたと思う。」(授業担当の先生)



### 全体を振り返っていかがでしたか。

「子どもたちは、教師が思う以上にすんなりと取り組んでいました。日頃からゲームやIT機器に触れる機会が圧倒的に多いのでしょう。ゲーム感覚で向かっているように感じました。

すべての子どもに平等に経験をさせるこのような機会は大事です。ただ、その準備と指導に関してたくさんの時間と労力がかかることは否めません。今回のような良い講師と機会を得て、教育課程の中で無理なく設定できるようになることが理想です。」(参加した教員)

(※)「Pepper」はソフトバンクロボティクスの商標です。

### プログラミング教育の今 ～こんなところにプログラミングが！～

令和2年度から完全実施の小学校の学習指導要領でも、プログラミング的思考を養うことをねらいとしています。文部科学省のHP「[小学校を中心としたプログラミング教育ポータル](#)」には、実施事例(単元、教育課程内・外など)や教材情報(教材ツールの紹介)、各教科等で考えられるプログラミング的思考や、身近な生活の中でプログラミングが解決してくれる内容(老舗食堂やキュウリ農家)について、参考になるものが多くあります。私たちの生活のどこにプログラミングが活用されているか、探してみるのも面白そうですね。

約15万株ともいわれている甘利山のレンゲツツジ。見頃を終えた7月7日、韮崎工業高校（飯嶋清二校長）のボランティア委員会の3年生が、下草刈りを行いました。この活動は15年前から地元の甘利山倶楽部の方々とともに続けています。例年、全学年のボランティア委員が参加しているのですが、ここにも新型コロナウイルスの影響が。今回は3年生のボランティア委員だけの活動でした。



担当する場所は、富士山が見える斜面。滑らないように安全に配慮しながら、レンゲツツジの根元に太陽の光が当たるように、笹を丁寧に刈り取っています。

「レンゲツツジの木を切らないように見極めて鎌で切るのは意外と難しい。人が手入れをしないと景観が保てないとわかり、やりがいを感じました。」  
（委員長 古屋涼汰朗さん）

「1年の時に続いて2回目の参加です。中学でもアヤメの手入れをしましたが、今回も倶楽部の方と作業しながら会話できて楽しかったです。」（楨形中出身の長谷川晟那さん）

「韮崎工業の生徒さんには毎年やってもらっています。根が横に張って育つレンゲツツジは、地面が笹で覆われていると育ちません。毎年の手入れがあって、レンゲツツジの花が咲き続けることができます。」（甘利山倶楽部市川秀明さん）



活動を継続することで、甘利山の環境保全活動にもつながっています。この11月に予定されている強歩大会では、甘利山は秋の景色で生徒の皆さんを迎えてくれることでしょう。

ちなみにレンゲツツジの花言葉は「向上心」「情熱」「堅実」。韮工生の姿と重なりました。

## #中北バトン（1）

様々な立場から、子どもたちへの思い、地域への思いを語っていただきます。  
1回目の今回は、中北地区地域教育推進連絡協議会会長の増山希世彦さまです。

### 「子どもたちへの思い、地域への願い・希望」

南アルプス市教育長 増山希世彦

「南アルプス市」は、日本第2位の高峰北岳を代表とする南アルプスの麓に広がる豊かな自然に抱かれたまち。2014年に国連教育科学文化機関（ユネスコ）の生物圏保存地域（エコパーク）に登録され、『南アルプスユネスコエコパーク』として、世界124カ所、701の地域（2019年7月時点）とともに、「自然との共生」を理念としたまちづくりを進めています。

豊かな自然に囲まれて育っている子どもたちに願うことは、雄大な自然を背景に様々な体験を通して、伸び伸びと育ち、ふるさとを誇りに思ってもらいたいということです。コロナ禍での制限もありますが、今だからこそできること、今しかできないことは必ずあります。ぜひ、今こそ、ふるさとについて深く考え、その良さを発見してください。

子どもたちの成長を手助けしてくださる教職員の皆さんには、ゆとりを持って働ける環境が必要だと考えています。働き方改革はもちろんのこと、安心して教育活動ができるよう、教育委員会としても全力で支援してまいります。他地域からお勤めの教職員の皆さんにも、本市の魅力を肌で感じていただき、南アルプスの子どもたちの成長のために、共に頑張りましょう。

## ただいま風林火山の修行中

甲府青年会議所

一般社団法人甲府青年会議所では、青少年の心の育成事業として、年間4回の「風林火山の修業」を開催しています。

目的は、未来を担う青少年のしなやかで豊かな心を育み、魅力ある「山の都」の実現につなげることです。2021年度は、甲府市、甲斐市、中央市、昭和町の3市1町から、小学校4～6年生20名が参加しています。「風」の修業は5月武田神社とゆうのう敷島、「林」の修業は7月武田の杜（写真）、「火」の修業は7月県立防災安全センターで行いました。8月の「山」の修業は屋久島で行う予定でしたが、感染症拡大状況を踏まえ、県内での実施を計画しています。



様々な実体験や人とのふれあいをとおして、主体性や協調性、リーダー性を養っています。お揃いのポロシャツ「挑戦」から、地域の子どもは地域で育て、「未来をつくる挑戦」の気概がとても感じられました。「アサカワキャプテン」こと、同会議所青少年の心育成委員会委員長の浅川貴明さんは「子どもたちには、柔軟で強い心を身につけて、心の成長をしてほしい。」と述べていました。

## 紙芝居で語り継ぐ ～郷土の偉人 山県大弐～

甲斐市生涯学習文化課



子どもたちに「大弐」のことを知ってもらいたい。甲斐市各公民館等の社会教育指導員と生涯学習コーディネーターのみなさんが、山県大弐の紙芝居を語り続けて今年で10年になります。当時、社会教育指導員5人で作成した紙芝居。現在も、市内児童館を中心に上演を続けています。今回は、代表して雨宮由紀子さん、岡田みどりさんに話を伺いました。

「最初からすべて手作業でした。紙芝居の作り方を県立博物館に見に行き、挿絵を敷島公民館で活動している『切り絵の甲斐』にお願いしました。地域でつくった、どこにも売っていない紙芝居です。」「上演当初は合併したばかりで、敷島・双葉地区の方、移住した方など、大弐を知らない方もいたので、地域のいきいきサロンを訪問したり、文化財係とも連携したりして理解を深めてもらいました。最近はYouTubeからも視聴もできますよ。」

実は、竜王地区の小中学校の校歌にも山県大弐の名が。日頃から、子どもたちは大弐の功績を思い、歌っているのでしょう。

毎年9月23日（秋分の日）には、山縣神社で山県大弐の遺徳を偲ぶ「大弐学問祭」が開催されています。また、竜王図書館2階資料室、竜王北部公民館では、山県大弐に関する資料を保管・展示しています。郷土が生んだ大学者について、家族でも話をしてみませんか？



WEB版公民館ふれあい講座

## あかはな そえじ先生が やってくる！

中北地区地域教育フォーラムのお知らせ



10月21日(木) 午後2時40分から

双葉ふれあい文化館にて開催予定！

「傷つきのある子どもへの関わり方」についての講演です。

昭和大学准教授 副島 賢和（そえじま まさかず）氏の

情熱に引き込まれること間違いなし！

詳細は、9月中旬の地域教育推進連絡協議会の案内をご覧ください。